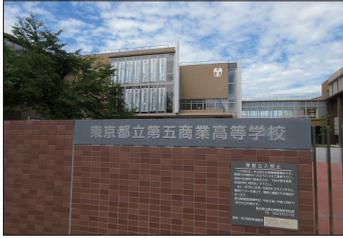


新型コロナウイルス 休校対応からみえたこと



東京都立第五商業高等学校

教務主任 荒井 久美（英語科）

商業科主任 中島 博己

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症の被害に遭われました皆様には心からお見舞い申し上げます。本稿を執筆している現在も収束しておらず、日常生活や学校生活にも「新しい日常」が求められています。このような前例のない状況の中で、学校活動をいかに維持していくのかという課題に、先生方の学校におかれましても大変なご苦勞をされていることと思います。

本校は今年度、創立 80 周年（全日制）を迎えた多摩地域唯一の歴史ある商業高校です。企業、隣の大学、NPO 法人などと連携して、発展的な授業に取り組んでおり、以前からビジネス科のリーディング校としての役割を担ってきました。また、大学入試改革に向けて生徒たちの学習記録を残すために、3 年前より Classi を導入しています。

2. 休校当初の状況と対応

2 月下旬に休校が決定した際、生徒へはすぐに当面の課題を出しました。学年末考査が中止になったことで、生徒・保護者には評価に関する不安があり、その対応に追われました。先に休校措置をとっていた諸外国の状況を鑑みると、われわれ教員の間には、休校のまま新年度を迎えた場合は、課題以外の対応をとる必要があるという認識が共有されていました。そのため、4 月に休校延長が決定した際はオンライン授業確立に向け、各家庭のインターネット環境の調査をおこない、状況把握を速やかに実施できました。調査の結果 2・3 年生では約 0.2% の家庭がオンライン授業を受けられない状況であることが分かり、そうし

た家庭には課題等を送る対応をとりました。4 月 3 週目からほとんどの教科で Classi を利用した課題配信をスタートし、同時に 2 つの教科で Zoom を利用した双方向型のオンライン授業、2 つの教科で YouTube を利用したオンデマンド型のオンライン授業を開始しました。さらに 4 週目には 2 学年で Zoom によるホームルームも開催しました。

新入生に対しては、4 月 3 週目までに送付した資料を基に Classi と学校メールの登録を進めてもらい、4 週目には学校メールでインターネット環境のアンケートをおこないました。調査の結果約 1% の家庭がオンライン授業を受けられない状況にあることを把握しました。新入生は Classi にログインできた順から課題を受け取れるようになり、Classi を見ていない生徒については、担任団が連絡をとることで参加を促しました。

4 月末には、学校長から、5 月 6 日に緊急事態宣言が解除されなかった場合、課題と家庭学習だけでは不足であるため、これまでオンライン授業をおこなってない教科、科目についても「**授業をしてから課題・家庭学習**」という通常の手順を踏むよう指示がありました。そこで各教科がどのような授業形態をとるのか検討してもらい、教務部でとりまとめたものが<資料 1>です。ここでは商業科目のみを掲載しましたが、ホームページには全科目を掲載し、生徒と保護者に周知を図りました。

ここに至るまでの過程で紆余曲折もありましたが、ICT やデジタルコンテンツに詳しい教員が積極的にオンライン授業を推進し、他の教員をサポートしながら進めてこられたのは、学校長

の「できない理由を探すより、まずはやってみよう。」という言葉が大きな原動力となりました。これによって、教員向けの研修会（Zoomの使い方、YouTubeへのアップロードの仕方など）を開催することができ、環境が整わずオンライン授業を受講できなかった生徒へも、学校のICTパソコンの貸し出しが可能となりました。

3. Zoomによるオンライン授業

Zoomを活用した授業をおこなったのは、商業科では2年簿記（発展2クラス）・原価計算・財務会計Iです。この3科目は、同じ生徒が合計9単位履修していて、11月の日商簿記検定2級合格を目指しています。内容が比較的高度なため、課題や一方通行の動画配信では生徒が理解しづら

資料1 緊急事態宣言中の対応

学年	科目	単位数	オンライン授業の方法	授業頻度	課題	評価方法	評価の回数
1	ビジネス基礎	3	YouTube	週1回	Classiによるアンケート、webテスト配信週一回。	Classiでの動画配信視聴状況 Classi課題の提出状況（期日厳守） Classi課題の正解状況	3回
	簿記	5	YouTube	週3回	5月11日週発送のプリント課題	発送プリント課題を評価 ルーブリック評価(資料2-1、2-2)	2回
	情報処理	4	—	—	Classiによるテスト配信	提出状況と正解の状況を評価	3回
2	簿記標準	3	YouTube	週3回	①Zoomでの動画をClassiにて配信 ②課題の解答をClassiにて配信 ③ClassiでWebテスト配信	①取組状況を評価 ②Webテストの取組結果による評価	① 3回 ② 1回
	情報処理標準	3	YouTube	週1.2回	①4/6に配布した筆記問題 ②模擬試験問題集の第1回から第12回までの筆記問題に取り組み。 ③Classiに配信されたWebテスト（5回程度）	課題①②③の提出状況から評価。①および②は、学校再開後の最初の授業で提出。	①②：1回 ③：5回程度
	ビジネスアイデア	3	外部講師による講義とグループワーク中心の授業であるため、予定はありません。	外部講師による講義とグループワーク中心の授業であるため、予定はありません。	レポートの提出期限が、授業再開後の最初の授業なので、左記3の内容と同じです。	レポートの提出期限が、授業再開後の最初の授業なので、左記4の内容と同じです。	
	簿記発展 ・原価計算 ・財務会計	9	Zoom	週6回	TACトレーニング（商業簿記）有形固定資産Ⅱまで TACトレーニング（工業簿記）部門別個別原価計算Ⅱまで	TACトレーニング（問題集）の提出状況によって評価。 問題集は学校再開後の最初の授業で提出。	1回
	情報発展 ・ビジネス情報 ・ビジネス情報管理	9	Youtube	週3本程度	問題集（登校再開後に提出）	Webテスト及び課題取り組み状況	1回
	マーケティング	3	Youtube	週1回	プリントによる課題とClassiによる課題配信（Webテスト及び動画の視聴など）	提出状況と取り組み状況を評価	2回
	秘書	3	—	—	秘書に必要なとされる脂質、職務知識、一般知識、マナー・接遇に関する〇×問題の配布	各自で採点して提出・登校再開時に筆記テスト	1回
	文書処理	3	—	—	文書作成時に必要な用語や画面操作上の用語などを課題として配布、合わせて類出漢字の読みを配布する。	登校再開時に実技・筆記テストを行う。	1回
ビジネス計算	3	—	—	プリントによる課題とClassiによる課題配信	再開後実技テスト及び提出状況と取り組み状況を評価	2回	
3	総合実践	3	—	—	classiによる課題配信（週1程度）	課題の提出状況及び取り組み状況	3回
	経済活動と法	3	Zoom	週1回	①Zoomでの動画をClassiにて配信 ②課題をClassiにて配信 ③Classiにて回収	①取組状況を評価	3回
	課題研究 （ITパスポート）	3	Classiによる課題配信	—	Classiによる課題配信（レポート作成）	配信した課題の提出の有無 配信した課題の完成度	1回
	課題研究 （職業・業界・学校研究）	3	Zoom	週1回	Classiのアンケート	週1回のZOOMへの出席状況、取り組み状況 Classiアンケート（レポート）提出状況（期日、文章量）	週1回
	課題研究 （起業家チャレンジ）	3	グループワークと議論中心の授業であるため、予定はありません。	グループワークと議論中心の授業であるため、予定はありません。	レポートの提出期限が、授業再開後の最初の授業なので、左記3の内容と同じです。	レポートの提出期限が、授業再開後の最初の授業なので、左記4の内容と同じです。	
	課題研究 （ビジネスデザイン）	3	YouTubeまたはZoom	1回程度	Classiで課題配信後、レポート作成	レポートの提出	1回
	課題研究 （ビジネススキル）	3	—	—	classiによる課題配信（週1程度）	課題の提出状況及び取り組み状況	3回分
	課題研究 （地域研究）	3	YouTube	1回	具体的な課題をClassiにて発信後、レポート提出	提出レポート内容、提出状況にて評価	1回
	課題研究 （文書デザイン）	3	YouTube	週3回	課題をClassiにて配信	Classiにて課題提出状況を評価	1回

いであろうとの判断から、双方向でやりとりする Zoom でのオンライン授業にしました。生徒の学習リズムを崩さないためには、この方法は適していると思います。一方で、対面での通常授業と比べるとどうしてもコミュニケーションや情報量が少なくなるのはいなめません。

4. YouTube によるオンライン授業

前頁の〈資料 1〉を見ていただくと商業科目の大半で YouTube による授業形態が選択されたことがわかります。生徒が「いつでも何度でも動画を見て学習することができる」点が選ばれた理由です。動画を視聴した生徒には、必ず Classi の「見ました」ボタンを押すように伝えました。Zoom での授業と違い、生徒の反応を見られないことや学習リズムが乱れがちになるという問題点があると感じています。いずれにしても、通常授業の空気感や机間巡視等による生徒の状況把握には遠く及ばないというのが実感です。

その後、休校が 5 月末まで延長されたことで、1 学期の中間考査が中止になりました。期末考査も中止になることを想定し、評価について説明責任を果たせるようにするには、どうしたらよいかを考えざるを得なくなりました。そんな中、1 年簿記の評価方法にあるように、以前から進めていたルーブリック評価について、前倒しで導入する動きが出てきたことは意外な効果でした。本校では、今年度からルーブリックを各教科・科目に落とし込む作業を進めていて、1 年簿記で先行実施しています。各単元の最初にルーブリックを提示して目標を確認させ、単元の学習が終了したら、達成度を自己評価して提出させています。学期ごとに各単元の評価を集計し、A B C の 3 段階で評価することが決まっています。〈資料 2-1、2-2〉

資料 2-1

[ルーブリック評価表、各科目・各単元ルーブリック表と評価集計表]

資料 2-2 (※ 試作中のものです。)

[1 年生簿記・各単元のルーブリック]



5. Classi を使った課題配信、オンラインテスト

本校では、3 年前より Classi を導入していますが、これまでは限定的にしか使われていませんでした。しかし、今回の新型コロナウイルス感染症の影響で一気に利用頻度が高まり、商業科でも可能な範囲で Classi を使いました。グループ機能を用いてお知らせをおこない、アンケート機能を用いて記述式の課題配信をおこない、選択式の課題配信はオンラインテストなどを利用しています。

しかし、商業科目の中には、どうしてもオンライン授業に馴染まない科目(情報処理、ビジネスアイデア、文書処理、総合実践、一部の課題研究の講座など)があります。機器を利用する科目やグループワークをする科目については、どうしてもリモートによる授業は難しく、今後どうするかが課題です。

6. 分散登校開始後の対応

6 月に入り、東京都のガイドラインに従って段階的に学校活動が再開されました。第 1 週は各学年 1 日、主に健康状態の把握を目的に登校が始まりました。出席番号の前半の生徒が午前、後半の生徒が午後に登校という分散形態をとりました。第 2 週は各学年、月・水・金を登校日とし、火・木を自宅学習日としました。登校日は午前 3 時間、午後 3 時間で各クラス半分ずつの生徒に登校し、ともに同じ時間割で授業をおこないました。第 3 週目からは、通常の時間割で毎日授業がおこなわれました。登校形態は、クラスを月・水・金に登校する生徒と火・木に登校する生徒の半分ずつに分け、第 3 週と第 4 週で登校する曜日を変えることで、2 週間で 1 週間分のカリキュラムが終わるように組み立てました。

〈資料 3〉は、今後、第 2 波などに備え、オンラインと通常授業を併用したハイブリッド授業の内容を示したものです。新型コロナウイルス感染症対策で密を避けなければならない状況が続く中、今後、グループワーク等のアクティブラーニングをどのようにおこなっていくのが課題です。

資料3 オンライン授業と学校での対面授業の併用について

学年	科目	単位数	オンライン授業	学校での対面授業
1	ビジネス基礎	3	用語説明、事例紹介、調べ学習	調べ学習の成果発表、質疑応答
	簿記	5	動画配信による内容理解	確認テスト、質疑応答、グループ・ペアワーク
	情報処理	4	調べ学習	実習授業
2	簿記標準	3	動画配信による内容確認	問題演習・質疑応答
	情報処理標準	3	用語の確認	問題演習、実技演習、質疑応答
	ビジネスアイデア	3	各自が選んだ文献を講読	グループ学習
	簿記発展 ・原簿計算 ・財務会計	9	学習内容の確認	問題演習、質疑応答
	情報発展 ・ビジネス情報 ・ビジネス情報管理	9	筆記問題解説	筆記問題・実技演習
	マーケティング	3	内容理解・予習・復習	「現代社会とマーケティング」単元へ 通常授業 質疑応答
	秘書	3	学習内容の確認等	テキストの内容解説
	文書処理	3	用語の確認等	実技演習 質疑応答
	ビジネス計算	3	課題指示など	実習授業 質疑応答 問題演習
3	総合実践	3	ビジネスマナーに関する内容理解・課題	模擬取引実践
	経済活動と法	3	内容理解・予習・復習	通常授業・質疑応答
	課題研究 (IIBレポート)	3	課題	テキストの内容解説、問題演習
	課題研究 (職業・業界・学校研究)	3	調べ学習	成果発表、講話
	課題研究 (起業家チャレンジ)	3	各自選択した文献を引き続き講読	講読をもとにディスカッション
	課題研究 (ビジネスデザイン)	3	課題レポート	調べ学習、意見交換、課題作成
	課題研究 (ビジネススキル)	3	課題レポート	課題説明・問題演習
	課題研究 (地域研究)	3	課題レポート	調査、研究、成果物作成
課題研究 (文書デザイン)	3	課題の配信	課題進捗の確認・pcでの作成準備	

7. おわりに

今後、東京都が導入した Microsoft Teams に移行する中で、ビデオ会議のマナーや方法についても生徒に新たなガイドラインを示していく予定です。

仮に再び休校措置がとられたとしても、オンデマンド型（本稿の YouTube）と双方向型（本稿の Zoom）の授業を組み合わせることで反転授業をおこなうことが可能です。この流れを教員がうまく取り入れることでできれば、学校での対面授業では生徒の考えを発表するような発展的なアクティビティが実施可能となり、教科横断型の授業の展開も期待できます。例えば、本校ではビジネスプランコンテストやイングリッシュビジネスプランコンテストに参加したことがありますが、英語の授業時数の関係上、ビジネスプランコンテストの内

容を取り入れることができず、一部の生徒しか出場できませんでした。しかし、生徒が知識をオンライン授業で取り入れてきてもらえれば、時間に余裕ができ、商業科と英語科が協力して、生徒同士が協働することでよりよいプランを作ったり、英語で話し合ったりする機会も持てると思っています。また、本校の簿記部が取り組んでいる BATIC（国際会計検定）についても Bookkeeper level であれば、全生徒が取り組むことが可能であると考えています。取り組みが定着すれば、国が進めている STEAM 教育も一気に進むチャンスになると考えています。そのために私たち教員が、「まずはやってみる。」という姿勢を崩さず、常にアップデートしていくことが求められていると感じています。